



## HAPPY NEWS FOR LIFE SUPPORT

### 特別ダイジェストレポート

多くの方に共通する情報がすぐに読め、  
非常に役に立つ内容が手に入られます

#### 今回のテーマ 「平時」

2009年秋。米国ドルに対して急速に円高が進行した際に、円と米国ドルの為替レートがニュースで大きな話題となりました（同時に、為替レートと関係が深い輸出銘柄の株価も報道されました）。2008年、夏までは原油価格高騰が秋以降には価格の暴落がそれぞれ注目を集めました。これらのニュースが一段落した後の相場をご存知ですか。

#### 【心機一転？】

価格や取引量などが急変するなどした時にはニュースになりますから、関連する金融商品への注目や取引量が大きく変動します。最近ではほとんど聞かれなくなっていますが、日銀の金利政策が住宅ローンの利率に影響を与えるかどうかについて話題になった時期もあります（わずか数年前の出来事です）。

為替や金利の動向に着目せずに、ご自身の得意とする金融商品だけしか契約しないというのも安全な資産運用方法です。もっとも危険なのは、たとえば「新年になったので目新しい取引に挑戦してみよう」という軽い気持ちで、現時点で注目されている（ニュースになっている）取引形態や金融商品に手を出すことです。もっとも、取引の方法や仕組みなどを理解できるようになった後でも世間での注目や関心も薄くなった後も当初の関心を維持できるのならば問題ありませんが。

#### 【平時はニュースにならない】

なじみのない取引に手を出すことはゼツタイにいけない、ということはありません。株式投資は多くの人々が手がけている取引ですが、金銭に換算すると大損失をこうむっている方も少なくないです（株式を公開している上場企業が倒産することもありますし）、安全な金融商品とされる投資信託で含み損を抱えている方もおられるでしょう。

その一方で、現時点での価格は購入した当時より大きく値下がりしていても、配当金などの形で定期的に支払われてきたものを合算すれば利益を出している場合もあります。問題は、これまでに受け取った配当やうけられる優待特典などに気付きにくいことだともいえます。

契約している金融商品が利益になっているか損害になっているかはご自身で調べなければなりません、何よりもニュースにならない平時に関心を持ち続けることが必要です。